

空気より軽い12A、13Aガス用

住宅用火災（熱式）・
ガス・CO警報器

OSAKA GAS

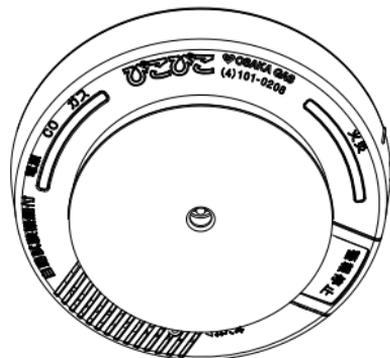
家庭用

びこびこ®

型番 (4)101-0208型

YP-768型

取扱説明書 保証書付



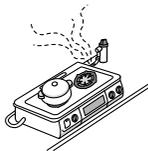
一般財団法人 日本ガス機器検査協会検査合格品
住宅用防災警報器 検定合格品

- 住宅用火災（熱式）・ガス・CO警報器「びこびこ」をお取り付けいただきありがとうございます。ありがとうございました。
- この取扱説明書は住宅用火災（熱式）・ガス・CO警報器「びこびこ」の取扱方法を説明します。
- お使いになる前に、この取扱説明書を必ずお読みいただき、内容をご理解した上で取り扱ってください。
- 本取扱説明書は、末頁に保証書がついています。取扱説明書はお手元に保管し、いつでもご覧いただけるようにしておいてください。

- 本書を紛失され、内容に不明な点があった場合は、販売店（リース取扱店）または最寄りの大阪ガスにお問い合わせください。
- 本警報器は、炎等の熱を感知して警報を発するものです。火災の発生を未然に防止する装置ではなく、また、火災による損害を防止することを保障するものではありません。火災などによる損害については、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本警報器は、ガスやCOを検知して警報を発するものです。ガスもれや不完全燃焼によるCOの発生を未然に防止する装置ではなく、また、ガスもれやCOによる損害を防止することを保障するものではありません。ガスもれやCOなどによる損害については、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本警報器は炎等の熱を感知して警報を発するものです。換気扇等により熱気が吸引され、熱感知部の温度が上昇しない場合は、火災警報機能が動きません。
- 本警報器は、ガスやCOを検知して警報を発するものです。ガス検知部にガスやCOが到達しない場合は、ガス警報機能やCO警報機能が動きません。

■ガス警報機能・CO警報機能

警報器周囲のガスやCOが規定濃度以上になると、それを検知して、注意報または警報を發します。



《お断わり》

- ガス検知部にガスやCOが到達しないときは、警報機能が動きません。
- ガスもれや不完全燃焼によるCOの発生を未然に防止する装置ではありません。
ガスもれやCO発生などによる損害については、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 取付場所近くでのガスもれやCO発生には警報を發しますが、他の部屋で発生したガスやCOには警報を發しないことがあります。

■火災警報機能

火災などにより、警報器周囲の温度が規定温度(約65℃)以上になると、それを感知して警報を發します。



《お断わり》

- 換気扇などにより熱気が吸引され、熱感知部の温度が上昇しないときは、警報機能が動きません。
- 火災の発生を未然に防止する装置ではありません。
火災などによる損害については、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 警報器を取り付けていない部屋は、火災の監視ができません。

もくじ

はじめに



安全上のご注意	1
対象ガス	4
各部のなまえとはたらき	5
警報器のお知らせ機能について	7
使用方法	9

警報器が 作動したら



1 「ウーウー ビービー火災警報器が作動しました 確認してください」と鳴ったときの処置のしかた	10
2 赤(ガス警報)ランプが点滅しているときの処置のしかた	11
3 「ウーウー ヒッヒッヒッヒッ ガスがもれていませんが」と鳴ったときの処置のしかた	11
4 黄(CO警報)ランプが点滅しているときの処置のしかた	13
5 「ウーウー ヒッポッヒッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」と鳴ったときの処置のしかた	13
6 「ウーウー ヒッヒッヒッヒッ ガスがもれていませんが」と「ウーウー ヒッポッヒッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」が交互に鳴ったときの処置のしかた	15
7 異常がないのに警報音が鳴ったり、ランプが点滅したときの処置のしかた	17
ランプ表示・音声出力の事象一覧表	19

取り扱い かた



お手入れのしかた	20
警報器の取り外し・取り付けかた	21
殺虫剤を使用するときは	22
点検方法について	25

その他



故障かな?と思ったら	26
アフターサービスについて	27
登録	27
廃棄について	27
仕様	28

取付位置の確認	29
---------	----



安全上のご注意

ご使用前に必ずお読みいただき、お客さまや他の人々への危害や損害を未然に防止するために、必ずお守りください。

注意事項は、誤った取り扱いによる危害や損害の程度を、以下の表示で区分しています。

危険

誤った取り扱いをすると「死亡または重傷を負う危険が切迫して生じる場合が想定される」内容を示します。

警告

誤った取り扱いをすると「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示します。

注意

誤った取り扱いをすると「傷害を負う可能性及び物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容を示します。

絵表示の内容

-  「必ず行う」事項を示しています。
-  「火気厳禁」事項を示しています。
-  「ぬれ手禁止」事項を示しています。
-  「水ぬれ禁止」事項を示しています。
-  「接触禁止」事項を示しています。
-  「分解禁止」事項を示しています。
-  「一般的に禁止」事項を示しています。

危険

ガス警報音が鳴っている間は、以下の内容を必ず守ってください。

爆発の恐れがあります。



必ず行う

ガス警報音が鳴っている部屋にいるときは、すぐに換気をし、使用中のガス機器を止めてください。



火気厳禁

マッチやライターなど、火気を使わないでください。



禁止

換気扇、電灯、蛍光灯など、電気製品のスイッチを入・切しないでください。



禁止

警報器を取り外さないでください。



禁止

部屋の外から、すぐに入室しないでください。



CO警報音もしくは火災警報音が鳴ったら、以下の内容を必ず守ってください。

CO濃度が上昇し、短時間で生命に危険が生じる恐れがあります。また、火災により生命に危険が生じる恐れがあります。



必ず行う

CO警報音が鳴っている部屋にいるときは、すぐに換気をし、使用中のガス機器を止めてください。



必ず行う

火災警報音が鳴り、消火が不可能なときは、避難してください。



禁止

部屋の外にいるときは、すぐに入室しないでください。



警告



必ず行う

常に電源が入っていること(緑(電源)ランプ点灯)を確認してください。

電源が入っていないと火災、ガスもれ、COが発生しても、警報を発しません。



必ず行う

設置後、5年(有効期限)を過ぎた警報器は、新しい警報器とお取り替えください。

正常に作動しない恐れがあります。有効期限は、警報器本体に貼り付けられている有効期限ラベルに示しています。



必ず行う

殺虫剤(くん煙・くん蒸・噴射式)を使用するときは、以下の内容を必ず守ってください。(P22~24参照)

- 警報器をポリ袋などで覆う。
- 噴霧が終わったら、換気した後、ポリ袋を取り除く。

誤作動の原因となります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で警報器の取り付け、取り外しをしないでください。

感電する恐れがあります。



水ぬれ禁止

警報器を水につけたり、水をかけたりしないでください。

ショートや感電の恐れがあります。



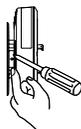
安全上のご注意

⚠ 警告



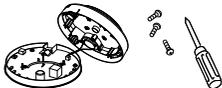
接触禁止

警報器中央部の熱感知部には触らないでください。火災を感知しなくなる恐れがあります。



分解禁止

分解や改造はしないでください。故障の原因となります。



禁止

衝撃を与えないでください。故障の原因となります。



禁止

警報器をお手入れするとき以外は、警報器を取り外さないでください。

火災、ガスもれ、COが発生しても、警報を発生しません。



禁止

ガス検知部は絶対にはみさがないでください。

ガスもれまたはCOを検知しなくなります。



禁止

煙感知式住宅用火災警報器に用いられる点検ガスを噴霧しないでください。

点検ガスにフロンが含まれている場合、ガスセンサの故障の原因となります。

⚠ 注意



必ず行う

警報器をお手入れするときは、必ず警報器を取り外してください。

感電やけがの原因となります。



必ず行う

警報器の取り外し・取り付け・点検を行うときや、警報器をポリ袋で覆うときは、安定した踏み台を使い、十分注意してください。

転落・転倒・落下によるけがの恐れがあります。



禁止

取付位置を移動させないでください。警報の遅れの原因となります。取付位置を変える必要が生じたときは、販売店にご相談ください。



禁止

警報器の前に物を置いたり、取り付けたりしないでください。警報の遅れの原因となります。



禁止

警報器の近くでラジオなどを使用しないでください。

ラジオなどにノイズ（雑音）が入ることがあります。警報器から距離を離してお使いください。



禁止

この商品は検定合格品ですが、消防法で定められた自動火災報知設備には該当いたしませんので、それらの用途には使用できません。



対象ガス

⚠ 注意

●この警報器は火災（火災などによる熱）、都市ガス（空気より軽い12A・13Aガス）及び燃焼排ガス中のCOを検知します。

●都市ガス（空気より軽い12A・13Aガス）供給区域外ではお使いにならないでください。



各部のなまえとはたらき

はじめに

●有効期限ラベル

●ガス検知部

ガス及びCOを検知します。

●ガス検知部点検口

ガス・CO警報点検時にガス採取器によりガスライターから採取したガスを注入します。

●警報停止スイッチ

警報停止スイッチを押すことにより、警報音・故障音の停止や外部機器との運動確認などができます。
※詳細はP17・25を参照ください。

●赤(火災警報)ランプ

火災による熱を検知すると赤(火災警報)ランプがスライド点灯します。
※点灯時はP10を参照ください。

●熱感知部

熱を検知します。

●形式認証配票

日本ガス機器検査協会の検査に合格したことを示します。

●外部出力信号端子 ⊕

信号線(プラス側)を接続します。

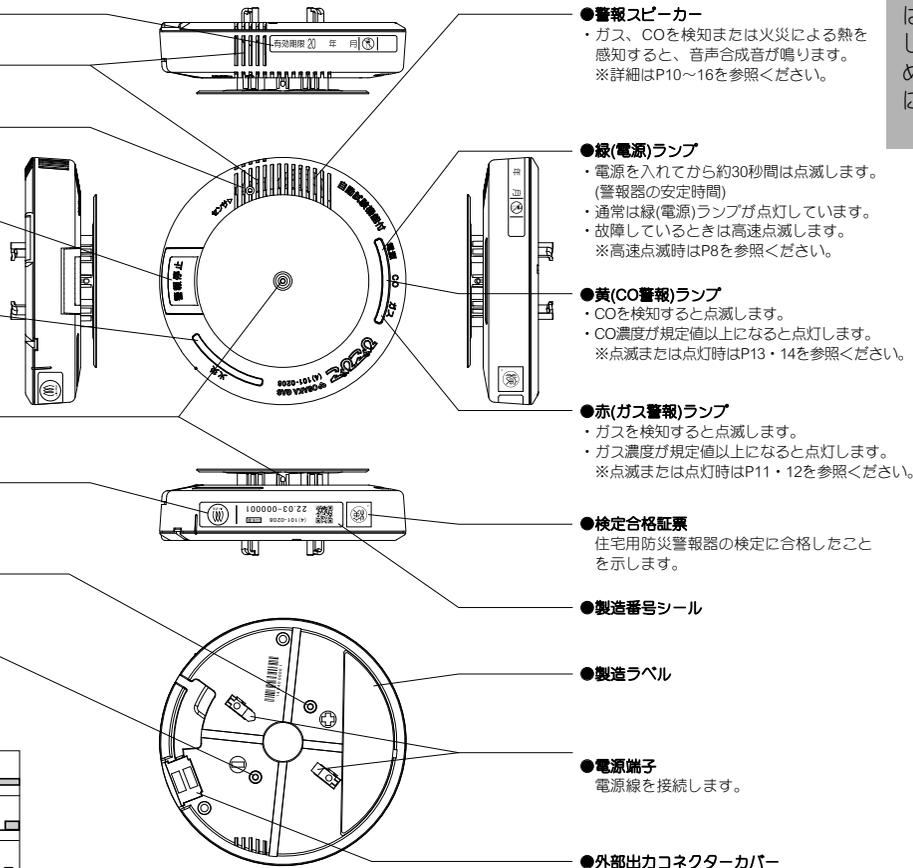
●外部出力信号端子 ⊖

信号線(マイナス側)を接続します。

—ランプのつきかたについて—

取扱説明書中のランプの点灯、点滅は次のように動作します。

点灯	連続して点灯	
点滅	点灯と消灯の繰り返し (0.5秒周期)	
高速点滅	点灯と消灯の繰り返し (0.25秒周期)	
ゆっくり点滅	3秒ごとに 2秒点灯	



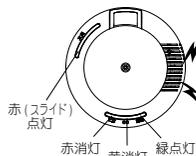


警報器のお知らせ機能について

火災警報機能

火災による熱が発生したときは

警報器周囲の温度が規定温度(約65℃)以上になると作動します。



P10参照

ウーウーピーピー
火災警報器が作動しました
確認してください

ガス・CO警報機能

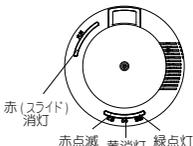
ガスがもれたときは

警報器周囲のガスが規定濃度以上になると作動します。低濃度のときは注意報が作動し、高濃度になると警報が作動します。



ガス注意報

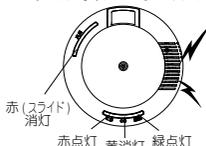
P11参照



ガス警報

P11.12参照

ウーウーピッピッピッピッ
ガスがもれていませんか

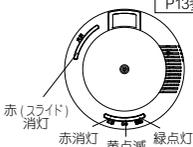


ガス機器の不完全燃焼によるCOが発生したときは

警報器周囲のCOが規定濃度以上になると作動します。低濃度のときは注意報が作動し、高濃度になると警報が作動します。(低濃度が約5分間継続した場合も警報が作動します。)

CO注意報

P13参照



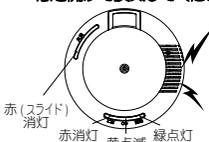
CO警報

P13.14参照

ウーウーピッポッピッポッ
空気が汚れて危険です
窓を開けて換気してください



ウーウーピッポッピッポッ
空気が汚れて危険です
窓を開けて換気してください



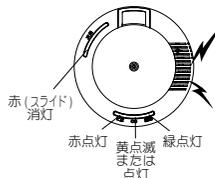
ガスのもれとガス機器の不完全燃焼によるCOが同時に発生したときは

ウーウーピッピッピッピッ
ガスがもれていませんか

ウーウーピッポッピッポッ
空気が汚れて危険です
窓を開けて換気してください

P15.16参照

交互に鳴る

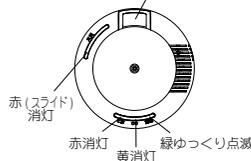


警報器周囲のガスとCOが規定濃度以上になると作動します。

有効期限が過ぎたときは

有効期限を半年以上過ぎると、緑(電源)ランプがゆっくり点滅(3秒ごとに2秒点灯)します。鳴動音は鳴りません。
※販売店までご連絡ください。

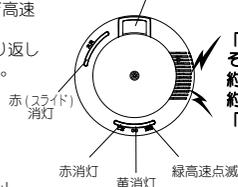
警報停止スイッチ



故障しているときは

熱感知部、ガス検知部や警報スピーカーなどの故障が発生すると、「故障です」が1回鳴り、緑(電源)ランプが高速点滅します。その後は「ピッピッピッ」と約1分毎に繰り返し鳴り、約10分毎に「故障です」が鳴ります。それ以降も同じ動作を繰り返します。ただし、警報停止スイッチを押すと故障音は約36時間停止します。緑(電源)ランプの高速点滅は止まりません。
※販売店までご連絡ください。
※外部機器と連動している場合、故障音停止中は外部機器の連動動作は停止します。
※警報スピーカー故障の場合、故障音は鳴りません。

警報停止スイッチ



「故障です」その後、約1分毎に「ピッピッピッ」約10分毎に「故障です」



使用方法



1 「ウーウービービー 火災警報器が作動しましたと確認してください」と鳴ったときの処置のしかた

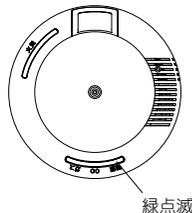
1 警報器を丸型ベースにはめ込む。

緑(電源)ランプが点滅し、警報器が監視状態に入る準備状態になります。



右方向に回す

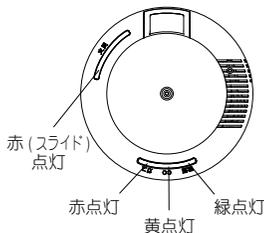
※丸型ベースには方向性がありますのでご注意ください。



緑点滅

2 電源を供給してから約30秒後、ランプが全点灯した後、消灯します。

〈過去約10日以内に警報が作動した場合〉最後に作動した警報の原因に伴ったランプが、約1秒間点灯します。(鳴動原因表示機能によるものです。)



赤(スライド)点灯

赤点灯

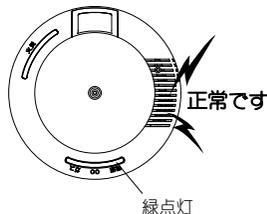
黄点灯 緑点灯

3 「正常です」と鳴って緑(電源)ランプが点灯し、監視状態に入ります。

〈警報器が故障している場合〉

「正常です」とは鳴らずにP8に記載している故障発生時の動作となります。

※販売店までご連絡ください。



正常です

緑点灯

△ 危険

消火が不可能なときは、避難する。



必ず行う



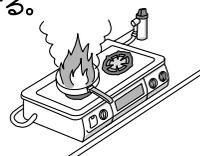
《お断わり》

- 火災以外の熱などで火災警報を発している場合でも、赤(ガス警報)ランプ及び黄(CO警報)ランプの点灯、点滅の有無を確認してください。
※火災警報を発している場合は、音声は火災警報が優先されるため、音声によるガス警報及びCO警報は発しません。
- 赤(ガス警報)ランプ及び黄(CO警報)ランプが点滅・点灯している場合は、P11～16の処置を行ってください。

〈火災以外の熱などで火災警報を発しているとき〉

P17の処置をしてください。

1 火元の確認をする。



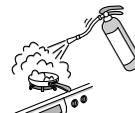
2 必要な手段をとる。

119番への通報

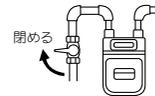
119



初期消火



天ぷら油から炎が出ているときは、ガスメーター近くメーターガス栓を閉める。メーターガス栓を開けるときは大阪ガスにご連絡ください。



警報器周囲の温度が規定温度(約65℃)以下になると、警報音が鳴りやみ、赤(火災警報)ランプが消灯します。



2 赤(ガス警報)ランプが点滅しているときの処置のしかた

赤(ガス警報)ランプが点滅している場合、ガス注意報を意味しています。

《お断わり》

外部機器と連動している場合、ガス注意報では外部機器は連動動作しません。

1 ドアや窓を開けて換気する。

しばらく換気を続けると、ランプは消灯します。



2 原因を確認する。

ガス濃度がうすい場合に点滅します。室内の空気の汚れにも反応することがあります。(P18参照)



3 「ウーウーヒッヒッヒッヒッ ガスがもれていませんが」と鳴ったときの処置のしかた

「ウーウーヒッヒッヒッヒッ ガスがもれていませんが」と警報し、赤(ガス警報)ランプが点灯している場合、ガス警報を意味しています。

警報音が鳴っている部屋にいるときは

△危険

警報音が鳴っている間は、以下の内容を必ず守ってください。爆発の恐れがあります。

マッチやライターなど、火気を使わない。



換気扇、電灯、蛍光灯など電気製品のスイッチを入・切しない。



1 ドアや窓を開けて換気する。



2 ガス栓や器具栓を閉める。



ガスコンセント接続の場合、ガスコンセントからソケットを外してください

3 ガスがなくなれば、警報音が鳴りやむ。【赤(ガス警報)ランプ消灯】



警報器を取り外さない。



4 ガスもれの原因を点検する。

原因としては、煮こぼれ、ゴム管のはずれ、ゴム管の亀裂、ガス機器の立ち消えなどが考えられます。



部屋の外から警報音に気づいたときは

△危険

警報音が鳴っている間は、**部屋の外から、すぐに入室しない。**爆発の恐れがあります。



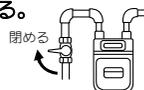
1 部屋に入らない。

室外からドアや窓を開けられるときは、ドアや窓を開けて換気する。



2 ガスメーター近くのリモーターガス栓を閉める。

メーターガス栓を開けるときは大阪ガスにご連絡ください。



3 ガスがなくなれば、警報音が鳴りやむ。

4 部屋に入り、赤(ガス警報)ランプの消灯を確認する。

5 ガス栓や器具栓を閉める。



ガスコンセント接続の場合、ガスコンセントからソケットを外してください

6 ガスもれの原因を点検する。

原因としては、煮こぼれ、ゴム管のはずれ、ゴム管の亀裂、ガス機器の立ち消えなどが考えられます。



処置をしても、警報音が鳴りやまないときは

最寄りの大阪ガスへ連絡する。

おねがい

●たびたび警報音が鳴るときは、ガス機器の点検を受けてください。(有償)

※警報器とマイコンメーターを接続している場合

警報音声が30秒～60秒間鳴り続けたとき、マイコンメーターがガスを止めます。

※警報器と戸外ブザーを接続している場合

警報音声が30秒～60秒間鳴り続けたとき、戸外ブザーが鳴ります。

ガスがなくなると同時に鳴りやみます。





4 黄(CO警報)ランプが点滅しているときの処置のしかた

黄(CO警報)ランプが点滅している場合、CO注意報を意味しています。

《お断わり》

●外部機器と連動している場合、CO注意報(黄ランプの点滅のみ)でありCO警報音が鳴っていない状態)では外部機器は連動動作しません。

※黄(CO警報)ランプの点滅が約5分間継続すると、「ウーウーピッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」と鳴りはじめます。

1 ドアや窓を開けて換気する。

しばらく換気を続けると、ランプは消灯します。



2 原因を確認する。

CO濃度がうすい場合に点滅します。室内の空気の汚れにも反応することがあります。(P18参照)



5 「ウーウーピッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」と鳴ったときの処置のしかた

「ウーウーピッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」と警報し、黄(CO警報)ランプが点滅または点灯している場合、CO警報を意味しています。

警報音が鳴っている部屋にいるときは

△ 危険

警報音が鳴ったら、**すぐに換気をし、使用中のガス機器を止める。**

CO濃度が上昇し短時間で生命に危険が生じる恐れがあります。

1 ドアや窓を開けて換気する。



2 ガス機器の使用を中止し、ガス栓や器具栓を閉める。



ガスコンセント 接続の場合、ガスコンセントからソケットを外してください

3 COがなくなれば、警報音が鳴りやむ。 【黄(CO警報)ランプ消灯】



部屋の外から警報音に気づいたときは

△ 危険

警報音が鳴っている間は、**部屋の外から、すぐに入室しない。**CO濃度が濃くなっていることがあり、短時間で生命に危険が生じる恐れがあります。



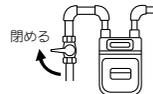
1 部屋に入らない。

室外からドアや窓を開けられるときは、ドアや窓を開けて換気する。



2 ガスメーター近くのマーターガス栓を閉める。

マーターガス栓を開けるときは



開める

大阪ガスにご連絡ください。

3 COがなくなれば、警報音が鳴りやむ。

4 部屋に入り、黄(CO警報)ランプの消灯を確認する。

5 ガス栓や器具栓を閉める。



ガスコンセント 接続の場合、ガスコンセントからソケットを外してください

処置をしても、警報音が鳴りやまないときは

おねがい

- たびたび警報音が鳴るときは、ガス機器の点検を受けてください。(有償)
- ガス機器以外の燃焼機器(石油ファンヒーター、石油ストーブなど)が原因で鳴ることもありますので、これらの機器についても点検を受けてください。

最寄りの大阪ガスへ連絡する。



※警報器とマイコンメーターを接続している場合

警報音声が30秒～60秒間鳴り続けたとき、マイコンメーターがガスを止めます。

※警報器と戸外ブザーを接続している場合

警報音声が30秒～60秒間鳴り続けたとき、戸外ブザーが鳴ります。ガスがなくなると同時に鳴りやみます。



6 「ウーウーヒッヒッヒッヒッ ガスがもれていませんか」と 「ウーウーヒッヒッヒッヒッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」が交互に鳴ったときの処置のしかた

ガス警報とCO警報を交互に発し、赤(ガス警報)ランプが点灯、黄(CO警報)ランプが点滅または点灯している場合、ガス警報とCO警報の複合警報を意味します。

警報音が鳴っている部屋にいるときは

△危険

警報音が鳴っている間は、以下の内容を必ず守ってください。爆発やCO中毒の恐れがあります。

マッチやライターなど、火気を使わない。



火気厳禁



換気扇、電灯、蛍光灯など、電気製品のスイッチを入・切しない。



禁止



警報器を取り外さない。



禁止



1 ドアや窓を開けて換気する。



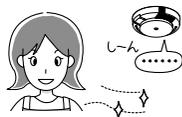
2 ガス機器の使用を中止し、ガス栓や器具栓を閉める。



ガスコンセント接続の場合、ガスコンセントからソケットを外してください

3 ガスやCOがなくなれば、警報音が鳴りやむ。

【赤(ガス警報)ランプ・黄(CO警報)ランプ消灯】



4 ガスもれやCO発生の原因を点検する。

原因としては、煮こぼれ、ゴム管のはずれ、ゴム管の亀裂、ガス機器の立ち消えなどが考えられます。



部屋の外から警報音に気づいたときは

△危険

警報音が鳴っている間は、**部屋の外から、すぐに入室しない。**爆発やCO中毒の恐れがあります。



禁止



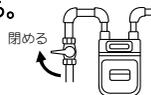
1 部屋に入らない。

室外からドアや窓を開けられるときは、ドアや窓を開けて換気する。



2 ガスメーター近くのメーターガス栓を閉める。

メーターガス栓を開けるときは大阪ガスにご連絡ください。



3 ガスやCOがなくなれば、警報音が鳴りやむ。

4 部屋に入り、赤(ガス警報)ランプ・黄(CO警報)ランプの消灯を確認する。

5 ガス栓や器具栓を閉める。



ガスコンセント接続の場合、ガスコンセントからソケットを外してください

6 ガスもれやCO発生の原因を点検する。

原因としては、煮こぼれ、ゴム管のはずれ、ゴム管の亀裂、ガス機器の立ち消えなどが考えられます。



処置をしても、警報音が鳴りやまないときは

おねがい

- たびたび警報音が鳴るときは、ガス機器の点検を受けてください。(有償)
- ガス機器以外の燃焼機器(石油ファンヒーター、石油ストーブなど)が原因で鳴ることもありますので、これらの機器についても点検を受けてください。

最寄りの大阪ガスへ連絡する。



※警報器とマイコンメーターを接続している場合

警報音声(30秒～60秒間)鳴り続けたとき、マイコンメーターがガスを止めます。

※警報器と戸外ブザーを接続している場合

警報音声(30秒～60秒間)鳴り続けたとき、戸外ブザーが鳴ります。ガスがなくなると同時に鳴りやみます。



7 異常がないのに警報音が鳴ったり、ランプが点滅したときの処置のしかた

ガスもれやCO発生ではなく、空気の汚れにより赤(ガス警報)ランプや黄(CO警報)ランプが点滅したり、警報音が鳴ったときは

〈警報音を止めたいとき〉

- 警報停止スイッチを押すと、
- ガス警報音は1回だけ5分間止めることができます。
 - CO警報は黄(CO警報)ランプが点滅し、CO警報音が鳴っている場合のみ警報音を1回だけ5分間止めることができます。
- ※警報器周囲のガスとCOが規定濃度以下になっていない場合、停止時間経過後に再びガス警報音、CO警報音を発します。
- ※外部機器と連動していて、かつ警報器周辺のガスとCOが規定濃度以下になっていない場合、停止時間経過後に再び連動します。

1 ドアや窓を開け、しばらく換気を続ける。



2 警報器周囲の空気の汚れがなくなると、ランプの点滅や警報音が鳴りやむ。

火災以外の熱で火災警報音が鳴ったときは

〈火災警報音を止めたいとき〉

- 警報停止スイッチを押してください。警報音が止まります。
- 火災警報音を5分間止めることができます。
- ※警報器周囲の熱が規定温度(約65℃)以下になっていない場合は、5分後に再び火災警報を発します。5分後に再警報しても警報停止スイッチを再度押すことで警報音を止めることができます。
- ※外部機器と連動している場合、警報音停止中は外部機器の連動動作は停止します。停止時間経過後は再び外部機器の連動動作が開始されます。

1 ドアや窓を開け、しばらく換気を続ける。



2 警報器周囲の温度が規定温度(約65℃)以下になると、警報音が鳴りやむ。

警報音が鳴ったり、ランプが点滅した原因について

以下の原因が考えられますので、調べてください。

- 長い間閉め切られたお部屋や、高气密住宅などの換気回数が少ないお部屋に設置されている場合、ガスセンサの感度に影響を及ぼす室内の滞留成分(シリコーンや溶剤に含まれる揮発性成分、フロンガス[エアコンの冷媒ガスなど])の作用により警報が鳴りやすくなる場合があります。また、まれに鳴り続けることがあります。
- 建材などから発生する揮発性成分の作用により警報が鳴りやすくなる場合があります。また、まれに鳴り続けることがあります。

〈ガス警報・CO警報〉

- スプレー式殺虫剤やヘアスプレーなどを、警報器にかけていませんか。
 - タバコの煙を警報器に吹きかけていませんか。
 - 芳香剤・香油(アロマオイル)などの濃いガスが警報器にかかっていますか。
 - 線香の煙が警報器にかかっていますか。
 - 溶剤、シンナー、ベンジンなどを大量に使用していませんか。
 - アルコール類やくん煙式、くん蒸式の殺虫剤が高濃度になっていませんか。
 - フローリングのワックス、溶剤を含む接着剤を使用していませんか。
 - 長時間、部屋を閉め切っていませんか。
 - 焼き魚の煙などが警報器にかかっていますか。
 - みりんや酢などの調味料成分を含んだ蒸気が、警報器に大量にかかっていますか。
 - 可燃性のガスなどを使用していませんか。
 - 警報器の通常の電圧範囲はAC100V±10Vです。それ以外で使用していませんか。
 - 換気が十分でない状態で、湯沸器を使用していませんか。
 - ガスコンロの着火ミスがありませんか。
 - 自動車の排気ガスが室内にこもっていませんか。
 - 炭火や練炭を使用していませんか。
 - 換気扇を回さずに大鍋(業務用)で湯を沸かしていませんか。点火初期時にCOが発生し、CO警報を発することがあります。
 - 警報器を設置した状態で十分な換気をせずに内装工事(リフォーム含)を行っていませんか。揮発成分がセンサに影響を与え、誤報を誘発します。また、内装工事(リフォーム含)を終えた段階でも、十分な換気が行われなかった場合、同様の事象が発生します。
- ### 〈火災警報〉
- 調理中の熱がこもっていませんか。
 - エアコンなどの空調機器の熱が直接警報器に当たっていませんか。
 - 熱感知部が故障している可能性があります。



おねがい

- ガスもれやCO発生ではなく、空気の汚れなどにより、赤(ガス警報)ランプ・黄(CO警報)ランプが点滅・点灯したり、警報音声が鳴る場合がありますが、すぐに鳴りやみますので警報器は取り外さないでください。

ランプ表示・音声出力の事象一覧表

表中の ○ はランプの点灯、✧ はランプの点滅を表しています。

ランプ				音声内容	事象	対応方法
電源 (緑)	CO (黄)	ガス (赤)	火災 (赤/白)			
○				なし	通常動作 (監視中)	—
○		✧		なし	ガス注意報	P11 参照
○		○		ウーウー ビッピッピッピッ ガスがもれていませんか	ガス警報	P11~12 参照
○	✧			なし	CO 注意報	P13 参照
○	✧			ウーウー ビッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて 換気してください	CO 警報	P13~14 参照
○	✧	✧		なし	ガス注意報と CO 注意報	P11,13 参照
○	✧	○		ウーウー ビッピッピッピッ ガスがもれていませんか	ガス警報と CO 注意報	P11~12 参照
○	✧	✧		ウーウー ビッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて 換気してください	CO 警報と ガス注意報	P13~14 参照
○	✧	○		ウーウー ビッピッピッピッ ガスがもれて いませんか/ ウーウー ビッポッピッポッ 空気が汚れて 危険です 窓を開けて換気してください (交互)	ガス警報と CO 警報	P15~16 参照
✧				故障です (10分毎) ピッピッピッ (1分毎) (警報スピーカー故障の場合はなしです)	故障警報(警報器が故障診断 機能により故障と判断した 状態)	P8 参照
✧				なし	有効期限切れ (警報器の有 効期限が半年以上過ぎた状 態)	P8 参照
○			○		火災警報	P10 参照
○		✧	○		火災警報と ガス注意報	
○		○	○		火災警報と ガス警報	
○		○	○		ウーウー ビービー 火災警報器が作動しました 確認してください	
○		○	○		火災警報と CO 注意報または CO 警報	
○	✧		○		火災警報と ガス注意報と CO 注意報または CO 警報	P10 参照
○	✧	✧	○		火災警報と ガス注意報と CO 注意報または CO 警報	
○	✧	○	○		火災警報と ガス警報と CO 注意報または CO 警報	

※故障したときは、上記以外の表示音声を発する場合があります。この場合、販売店にご連絡ください。



お手入れのしかた

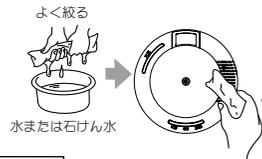
1 警報器を取り外す。(P21参照)

《お断わり》

外部機器(インターホンなどの集中監視機器)と接続しているときは、警報器を取り外すと、外部機器で警報音(故障表示)が鳴ることがあります。

2 警報器及び取付部付近の天井面の汚れをふき取る。

●警報器表面・天井面
布を水または石けん水に浸し、よく絞ってからふき取ってください。



おねがい

●お手入れするときは、警報器の内部に水が入らないように注意してください。

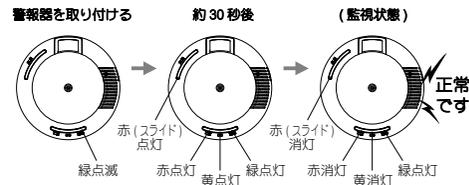
●お手入れするときは、中性洗剤、アルカリ性洗剤、塩素系漂白剤、ベンジン、シンナー、アルコールは使わないでください。
アルカリ性洗剤などを使うと、警報器本体の表面に傷がついたり、しばらく赤(ガス警報)ランプが点滅したり、警報音が鳴りやまないことがあります。



3 警報器を取り付ける。(P21参照)

●警報器の電源が入ります。

緑(電源)ランプが点滅し、約30秒後ランプが全点灯した後消灯し、正常であれば「正常です」と鳴って緑(電源)ランプが点灯し、警報器は監視状態に入ります。異常があれば「故障です 販売店に連絡してください」と鳴りますので、警報器の交換をお願いします。



〈過去約10日以内に警報が作動した場合〉

電源を入れてから約30秒後ランプが全点灯した後、最後に作動した警報の原因に伴ったランプが、約1秒間点灯します。(鳴動原因表示機能によるものです。)

取り扱いかた



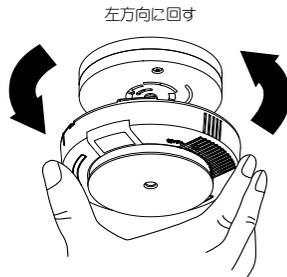
警報器の取り外し・取り付けかた

〈取り外しかた〉

警報器を左方向（反時計方向）に回して取り外す。

⚠ 注意

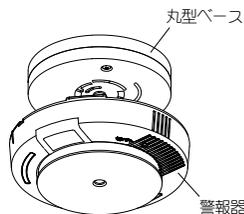
- 警報器の取り外しは、高いところでの作業になりますので、しっかりした踏み台を使って十分に注意して行ってください。転落、転倒、落下の原因になります。



〈取り付けかた〉

1 警報器を丸型ベースに差し込む。

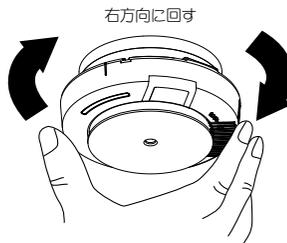
※丸型ベースは方向性がありますのでご注意ください。



2 警報器を右方向（時計方向）に回して取り付ける。

⚠ 注意

- 警報器本体を止まる位置まで右に回し、確実に固定されているか確認してください。また、過度に回しすぎないように注意してください。破損の原因になります。
- 警報器の取り付けは、高いところでの作業になりますので、しっかりした踏み台を使って十分に注意して行ってください。転落、転倒、落下の原因になります。



殺虫剤（くん煙・くん蒸・噴射式）を使用するときは

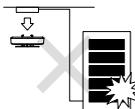
殺虫剤の噴射ガスに反応して警報器が鳴る場合があります。次の処置を行っていただくと、警報器が鳴り出すのを防ぐ効果があります。

⚠ 警告

殺虫剤を使用した後は、必ず部屋の換気をし、ポリ袋を外してください。警報器が作動しません。

警報器は取り外さないでください。

警報器の信号が外部機器と接続されている場合は、警報器を丸型ベースから取り外すと、外部機器で警報音（故障表示）が鳴ることがあります。



⚠ 注意

警報器へのポリ袋の取り付け・取り外しは、高いところでの作業になりますので、しっかりした踏み台を使って十分に注意して行ってください。

転落、転倒、落下の原因になります。



1 警報器をポリ袋で覆う

警報器を取り付けている部屋で殺虫剤を使用するときは、警報器が噴射ガスに反応してガス警報音が鳴る恐れがありますので、必ず警報器に以下の処置をしてください。

天井面の素材が粘着テープによって傷む恐れのあるとき

【準備するもの】

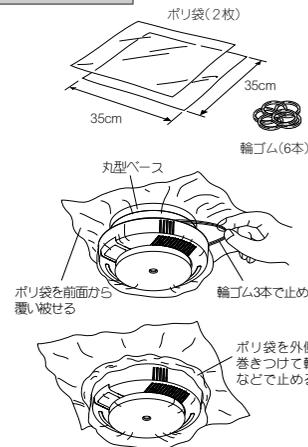
●ポリ袋（35 cm × 35 cm ・ 2枚）

ポリプロピレン製（PP）または >PP< 表示）が好ましいですが、ポリエチレン製でも一定の効果があります。

●輪ゴム（6本）

【処置のしかた】

- ①ポリ袋を警報器の前面から覆い被せ、丸型ベース部分を輪ゴムで止めてください。輪ゴムは1本では弱いので3本程度使用し、しっかり止めてください。
- ②ポリ袋と天井の隙間から噴射ガスが侵入するのを防ぐため、輪ゴムで止めたポリ袋の上から丸型ベースに添って、ポリ袋を1周まきつけて、輪ゴムなど(3本程度)で止めてください。



天井面の素材が粘着テープによって傷む恐れのないとき

【準備するもの】

- ポリ袋 (35 cm × 35 cm ・ 1枚)

ポリプロピレン製 ( または >PP< 表示) が好ましいですが、ポリエチレン製でも一定の効果があります。

- 輪ゴム (3本)

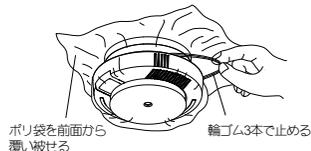
- 接着テープ

養生テープやメンディングテープなど、接着しやすく、また、剥がすときに天井面をいためないテープを選んでください。

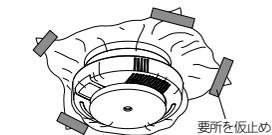


【処置のしかた】

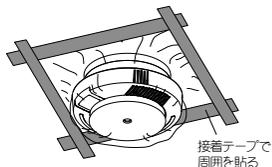
- ①ポリ袋を警報器の前面から覆い被せ、丸型ベース部分を輪ゴムで止めてください。
輪ゴムは1本では弱いので3本程度使用し、しっかりと止めてください。



- ②ポリ袋と天井の隙間から噴射ガスが侵入するのを防ぐため、ポリ袋の端を接着テープで天井面に貼り付けてください。
要所をテープで仮止めしてから、周囲を貼ってください。ただし、天井面などの状況により貼り付けができない場合は、①のみの処置でも一定の効果はあります。



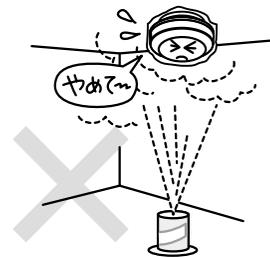
- ※ポリ袋と天井面の間に隙間ができないように、接着テープを貼ってください。特に、ポリ袋がしわになっている部分に注意してください。



2 殺虫剤を噴霧する

以下のようなときは、ポリ袋で覆っていても警報音が鳴ることがあります。
殺虫剤を使用するときは、事前に住宅管理者やご近所の方に、連絡しておいてください。

- 部屋の広さに比べて、極端に大きな容量の殺虫剤を使用したとき。
必ず、部屋の広さに応じた容量の殺虫剤をご使用ください。
- 殺虫剤を警報器の真下で使用したとき。
警報器の真下は避けてください。
- ポリ袋と天井面の間に隙間があったり、ポリ袋に破れや穴があるとき。
- 警報器をポリ袋で覆う前に、石油系溶剤やアルコール類などを使用していたとき。
ガス検知部に影響を与える成分が封じ込められます。
- 経年変化によって、ガス検知部が敏感になっているとき。

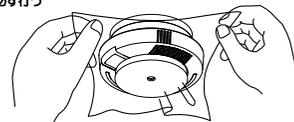


3 ポリ袋を取り外す

噴霧が終わり、換気した後、忘れずにポリ袋を取り外してください。

おねがい

接着テープを外すときは、天井面などを傷めないように慎重に行ってください。





点検方法について

日常の点検

日常、警報器の緑(電源)ランプが点灯していることを確認してください。

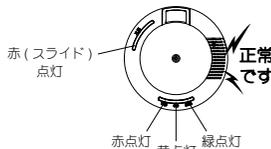
※緑(電源)ランプが消灯もしくは高速点滅している場合は、販売店に連絡してください。
(P26「故障かな?と思ったら」を参照ください。)



定期点検

警報器が正常に動作していることを確認するため、警報停止スイッチによる点検を行ってください。

- ①警報停止スイッチを約1秒間押すと「ピッ」と鳴り、緑(電源)ランプが点滅します。
- ②「ピッ」と鳴ったらすぐに手を離す。
- ③全ランプが1秒間点灯し、「正常です」が鳴り、終了します。



外部機器との連動確認機能について

⚠ 警告

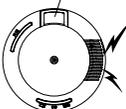
- 点検時、決してライターなどの炎を使用しないでください。警報器の破損や火災の原因になります。
- 点検をするときは、必ず安定した台に乗って行ってください。転倒してけがをする恐れがあります。

⚠ 注意

- 外部機器(マイコンメーター、集中監視盤、インターホン等)が作動しますので、連動確認機能を操作される場合はご注意ください。
- マイコンメーターが作動した場合は、所定の復帰操作を行ってください。その他の外部機器が作動した場合は、外部機器の復帰操作を確認していただき、復帰操作を行ってください。

〈連動確認のしかた〉

- ①警報停止スイッチを3秒間押し続けて、警報停止スイッチください。「ピッピッ」と開始音が鳴ります。(緑(電源)ランプが点滅を開始)
- ②警報停止スイッチを離すと以下のように作動することを確認してください。(外部出力信号が1分間出力されます。有電圧は12Vと18Vが交互に出力されます。火災警報時の信号も同時に出力します。)



動作順	音声内容	ランプ				火災出力	有電圧出力(12/18V)
		電源(緑)	CO(黄)	ガス(赤)	火災(緑2灯)		
1	ウーウーピーピー 火災警報器が作動しました 確認してください	点滅			○ 点灯	ON	ON
2	ウーウーピッピッピッピッ ガスがもれていませんか	点滅		○ 点灯		ON	ON
3	ウーウーピッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください	点滅	○ 点灯			ON	ON
4	無音	点滅	○ 点灯	○ 点灯	○ 点灯	ON	ON

- ③約1分後に「ピー」と終了音が鳴り、監視状態(緑(電源)ランプ点灯)に戻ります。
※1分以内に点検を終了したい場合は、警報停止スイッチを押すと、「ピッ」と鳴り、即時に終了します。



故障かな?と思ったら

こんなときは

緑(電源)ランプが消灯している。

警報器が正常にもかかわらず、外部機器が鳴る。

警報器が温かくなっている。

緑(電源)ランプが高速点滅している。

火災、ガスもれ、COの発生ではないのに、赤ランプや黄ランプが点滅したり、警報音が鳴る。

電源を入れたときに、赤ランプや黄ランプが長く点灯する。

緑(電源)ランプがゆっくり点滅している。

ここを確認して

警報器が丸型ベースにしっかりとはめ込まれていますか。

電源ブレーカーが切れていませんか。

停電していませんか。

—

警報器の故障を知らせています。

原因を調べてください。(P18参照)

ガス機器の異常が考えられます。

ガス機器以外の燃焼機器の異常が考えられます。

10日以内に警報を発生していませんか。

警報器の有効期限ラベルに記載されている有効期限が過ぎていませんか。

こう処置してください

警報器を丸型ベースにはめ込んでください。

ブレーカーを入れてください。

停電でなければ、警報器の故障もしくは丸型ベース内部の断線、誤配線などが考えられますので、販売店に連絡してください。

通電により、センサ部を加熱しています。異常ではありません。

販売店に連絡してください。

ドアや窓を開け、しばらく換気を続けてください。ランプの点滅や警報音が止まります。鳴りやまない場合は最寄りの大阪ガスへ連絡してください。

ガス機器の点検を受けてください。(有償)

それらの機器も点検を受けてください。

鳴動原因表示機能によるもので、故障ではありません。(P9参照)

有効期限が過ぎていれば、販売店に連絡してください。(P8参照)



アフターサービスについて

- この警報器は、5年間の無償保証付です。この取扱説明書に書かれている内容を守っていただく上で警報器が正しく作動しないことが判明した場合には無償でお取り替えいたします。ただし保証書裏面「5」の項目に該当する場合は、この限りではありません。保証書をご参照ください。
- この警報器の有効期限は、ご使用開始後5年間です。有効期限とは警報器の性能を保証できる期間であり、5年を経過したものは、規定のガス濃度で警報しないなど誤作動の恐れがありますので、ぜひ新しい警報器とお取り替えください。
- 「リース契約書」もしくは「警報器登録票」に販売店（リース取扱店）名の記入のないものは保証内容が無効となる場合がありますので、お取り付け時にご確認ください。
- アフターサービスについて、ご不明の点がございましたら、販売店（リース取扱店）または最寄りの大阪ガスまでご連絡ください。
- 警報器の有効期限が過ぎたときは、販売店（リース取扱店）または最寄りの大阪ガスまでご連絡ください。
- 作動点検をご希望の場合には、有償にて点検いたします。
- 引越しやお部屋の模様替えなどで警報器を移動される場合は、販売店（リース取扱店）または最寄りの大阪ガスまでご連絡ください。



登録

この警報器は、コンピューターに登録して管理させていただきます。登録は、取り付け時もしくは開栓時に行い、登録済みの警報器の有効期限ラベルには有効期限が記入されていますので、ご確認ください。
また、有効期限の記入のないラベルは未登録の場合がありますので、販売店（リース取扱店）または最寄りの大阪ガスまでご確認ください。（保証書と有効期限ラベルの期日が異なる場合は、有効期限ラベルの期日が、この警報器の有効期限です。）
有効期限の約1カ月前に、登録されているものについては、当社よりお知らせします。有効期限が過ぎた場合は、新しいものとお取り替えください。



廃棄について

〈リース契約の警報器の廃棄〉

有効期限が過ぎた警報器は、販売店（リース取扱店）にて回収いたします。

〈お買い上げいただいた警報器の廃棄〉

お住まいの市町村の廃棄物の処理方法にしたがってください。



仕様

項目		仕	機	
火災警報機能	種別	定温式住宅用防災警報器		
	型式番号	住警第26～87号		
	検知原理	半導体（サーミスタ使用）		
	公称作動温度	約65℃		
ガス警報機能・CO警報機能	外部出力信号	警報時 a 接点 ON 無電圧 接点容量 (DC24V、0.1A) 無極性		
	住宅用防災警報器 検定合格品			
	対象ガス	都市ガス（空気より軽い12A・13Aガス用） 燃焼排ガス中のCO		
	検知方式	半導体式		
	都市ガス	ガス警報	作動条件	*爆発下限界濃度の1/4の都市ガスに対し60秒以内に警報
		表示・発報方式	赤(ガス警報)ランプ点灯 音声合成警報音	
	ガス注意報	ガス注意報	作動条件	ガス警報濃度以下の都市ガスに対し注意報
		表示・発報方式	赤(ガス警報)ランプ点滅 発報音なし	
	燃焼排ガス中のCO	CO警報	作動条件	550ppmのCOに対し5分以内に警報 300ppmのCOに対し10分以内に警報
			表示・発報方式	黄(CO警報)ランプ点灯 音声合成警報音
CO注意報		作動条件	300ppmのCOに対し5分以内に注意報	
		表示・発報方式	黄(CO警報)ランプ点滅 発報音無し	
外部出力信号	有電圧出力 3段階有電圧2線式 (監視時 DC6V、電源OFF時・故障診断時 0V、ガス警報時 DC12V、CO警報時 DC18V)			
一般財団法人 日本ガス機器検査協会 (JIA) 都市ガス用ガス警報器検査規程 認証合格品				
共通仕様	警報音量	70dB(A)/m以上		
	電源	AC100V±10V 50/60Hz		
	消費電力	監視時 約0.7W、警報時 約1.2W		
	付属機能	通電初期警報防止タイマー付、故障診断機能、有効期限お知らせ機能		
	使用温度範囲	0℃～+40℃（結露しないこと）		
寸法・質量	φ120×34.5mm 約165g			
付属品	取扱説明書(保証書付)〔本書〕×1、リースシール×1			

* 爆発は空気とガスの混合割合が一定範囲で起こる可能性があります。その範囲を爆発限界といて、最高濃度を爆発上限界、最低濃度を爆発下限界とします。
※ マイコンメーターと接続する場合は、別売の警報器アダプターが必要になります。

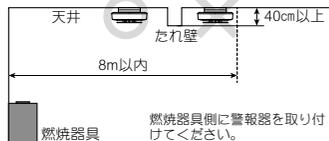
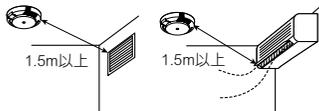
取付位置の確認

⚠ 注意

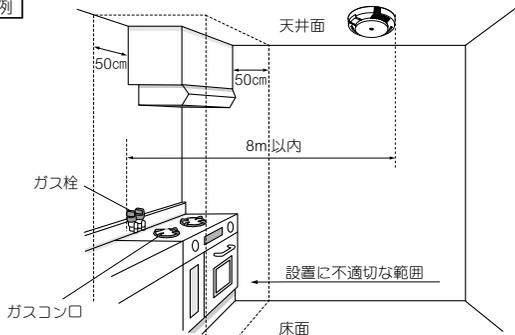
正しい取付位置に取り付けられていることを確認してください。
取り付けてはいけない場所に取り付けられていると、警報の遅れ、誤報、故障の原因となります。

＜正しい取付場所について＞

- ガス、COを検知しようとするガス機器を設置している場所と、同一の室内に取り付けてください。
- たれ壁やはりから40cm以上離してください。
- ガスやCOが滞留しやすい位置で、緑(電源)ランプの確認しやすい位置、点検が容易にできる場所へ取り付けてください。
- ガス、COを検知しようとするガス機器(一定位置に固定しないで使用されるガス機器の場合はガス栓)から、水平距離で8m以内に取り付けてください。
- 換気口やエアコンなど、空気の吹き出し口から1.5m以上離してください。
- 天井面が40cm以上の突出したたれ壁などによって区画される場合は、たれ壁より燃焼器具側に取付けてください。



取付例

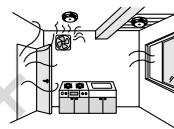


※警報器の取り付けや取付位置の移動は、販売店にあまかせください。

＜取り付けてはいけない場所について＞
以下の場所には、絶対に警報器を取り付けてください。

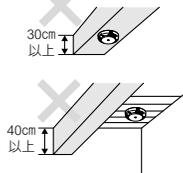
- 換気扇、給気口、ドア付近など風通しの良い場所。
- 隙間風の入る場所。

警報が遅れたり、検知できないことがあります。



- 30cm以上(警報器含)のたれ壁などの下。
- 40cm以上のたれ壁で区切られている場所。

警報が遅れたり、検知できないことがあります。



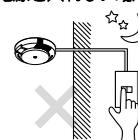
- 燃焼器具などの排気、湯気、油煙及び調理用アルコールの蒸気が直接かかる場所。

センサ寿命が短くなったり、誤報の原因になります。



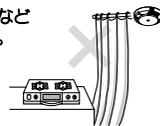
- ビルの給湯室など夜間電源を切る場所。
- 使用時でないで電源を入れない場所。

警報器としての機能を果たしません。



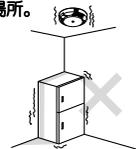
- カーテンウォールなどで仕切られた場所。

警報が遅れます。



- 振動、衝撃の激しい場所。

センサ故障の原因になります。



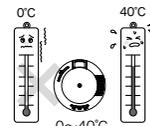
- 浴室、水のかかる場所、水滴がつく場所。

感電や電氣的故障の原因になります。



- 温度が0~+40℃の範囲をこえる場所。

警報器としての機能を果たしません。また、誤作動の原因になります。



- 屋外。

屋外用ではありません。

- 業務用・工業用。

家庭用です。業務用・工業用ではありません。

- 照明器具などから発生する熱の影響を受ける場所。

センサ故障の原因になります。



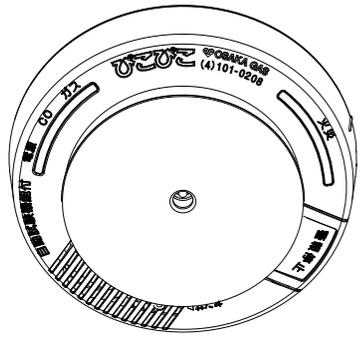
- 食器棚などの上部。

警報が遅れます。



取付説明書【施工される方へ】

お客さまにこの警報器を安全に正しくご使用いただくために、この取付説明書をよくお読みいただき、指定された取り付けを行ってください。



1 お願いとご注意

警報器を正しく設置していただくため、また、あなたやお客さまへの危害や財産への損害を未然に防止するためにこの取付説明書には、下記の表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 作業を誤った場合に、取付作業者及び使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 作業を誤った場合に、取付作業者及び使用者が傷害を負う場合または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

2 施工される方へのお願い

- 取付終了後に取付説明書に従って「6-1 自動初期点検機能の確認」及び必要に応じて「6-2 作動点検」を行ってください。なお、作動不良の場合は交換してください。また、外部機器と連動した場合は、外部機器の取扱説明書、取付説明書に基づいて連動確認をしてください。
- 必要に応じて、「3-1 警報器の説明」「3-2 お客さまへの周知事項」についてお客さまに説明を行い、ご理解を得てください。
- 警報器を梱包から出された状態で持ち運びまたは保管しないでください。

注意 警報器には、落下などの強い衝撃を与えないように、取り扱いには十分に注意してください。故障や誤作動の原因になります。

3 お客さまへの説明について

3-1 警報器の説明

- ①警報動作及び自動初期点検機能の結果の説明。
作動点検をした場合は、作動点検の結果の説明。
- ②取扱説明書を必ず読んでいただくこと、取扱説明書を「警報器登録票」または「リース契約書」とともに保管していただくことをお願い。
- ③取扱説明書に基づく主要な機能の説明と確認。
 1. 火災警報の内容(赤(火災警報)ランプスライド点灯、音声合成音の確認)と、警報時にとるべき処置の説明。
 2. ガス警報の内容(赤(ガス警報)ランプ点灯、音声合成音の確認)と、警報時にとるべき処置の説明。
 3. CO 警報の内容(黄(CO 警報)ランプ点滅・点灯、音声合成音の確認)と、警報時にとるべき処置の説明。
 4. ガス警報、CO 警報の同時警報の内容(赤(ガス警報)ランプ)と黄(CO 警報)ランプ)の点滅・点灯、音声合成音の確認)と、警報時にとるべき処置の説明。

5. 部屋の外にいて、ガス警報、CO 警報に気づいたときにとるべき処置の説明。
6. 誤報が発生する原因と処置の説明。
7. 警報停止スイッチ操作の説明。
 - ・外部機器との連動点検
 - ・警報音停止
 - ・定期点検

3-2 お客さまへの周知事項

- ①保証期間 5 年。
- ②警報器の有効期限のお知らせ。
(本体に貼付の有効期限ラベルに表示)
- ③保証書を必ず読んで内容を理解した上で取り扱うこと。
- ④警報器の移設禁止。(移設依頼時の連絡先)
- ⑤警報器の分解禁止。
- ⑥引越時の処置。
- ⑦故障・異常時の連絡先。
- ⑧リースの場合、本人または配偶者に契約書の記入をしてもらい、決して子供に記入させないこと。
- ⑨リース契約の内容及び解約時の措置。

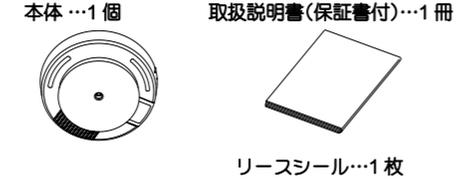
4 取り付け前の確認

4-1 警報器の確認

取り付ける警報器が空気より軽い12A・13Aガス用であり、本体に異常のないことを確認してください。

4-2 梱包部品の確認

梱包部品の種類と個数を確認してください。



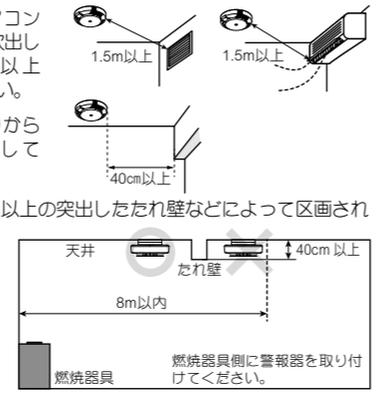
4-3 取付位置の確認

設置場所の選定については、お客さまとよく相談して決めてください。

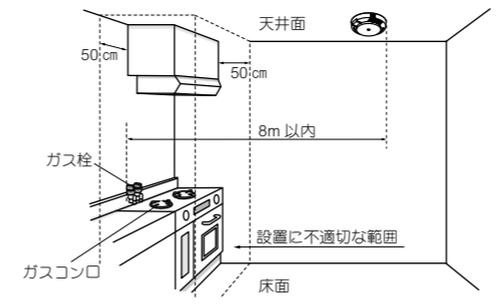
注意 正しい取付位置に取り付けてください。取り付けられない場所に取り付けると、警報の遅れ、誤報、故障の原因となります。

正しい取付場所について

- ガス、CO を検知しようとするガス機器を設置している場所と、同一の室内に取り付けてください。
- ガスやCO が滞留しやすい位置で、緑(電源)ランプの確認しやすい位置、点検が容易にできる場所へ取り付けてください。
- ガス、CO を検知しようとするガス機器(一定位置に固定しないで使用されるガス機器の場合はガス栓)から、水平距離で8m以内に取り付けてください。
- 換気口やエアコンなど、空気の吹出し口から1.5m以上離してください。
- たれ壁ややりから40cm以上離してください。
- 天井面が40cm以上の突出したたれ壁などによって区画される場合は、たれ壁より燃焼器具側に取り付けてください。



取付例



取り付けてはいけない場所について

- 以下の場所には、絶対に警報器を取り付けしないでください。
- 換気扇、給気口、ドア付近など風通しの良い場所。
 - 隙間風の入る場所。
警報が遅れたり、検知できませんことがあります。
 - 30cm以上(警報器含)のたれ壁などの下。
 - 40cm以上のたれ壁で区切られている場所。
警報が遅れたり、検知できませんことがあります。
 - 燃焼器具などの排気、湯気、油煙及び調理用アルコールの蒸気が直接かかる場所。
センサ寿命が短くなったり、誤報の原因になります。
 - ビルの給湯室など夜間電源を切る場所。
 - 使用時でないと電源を入れない場所。
警報器としての機能を果たしません。
 - カーテンウォールなどで仕切られた場所。
警報が遅れます。
 - 振動、衝撃の激しい場所。
センサ故障の原因になります。
 - 浴室内、水のかかる場所、水滴がつかう場所。
感電や電氣的故障の原因になります。
 - 温度が0~+40℃の範囲をこえる場所。
警報器としての機能を果たしません。また、誤作動の原因になります。
 - 屋外。
屋外用ではありません。
 - 業務用・工業用。
家庭用です。業務用・工業用ではありません。
 - 照明器具などから発生する熱の影響を受ける場所。
センサ寿命が短くなったり、誤報の原因になります。
 - 食器棚などの上部。
警報が遅れます。

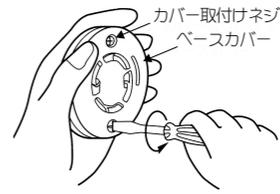
5 取り付けかた

丸型ベース(別売品：(4) 001-0054)を取り付ける場合は「5-1 電気工事要領」から、すでに丸型ベースが取り付けられている場合は「5-4 有効期限の記入」から参照してください。

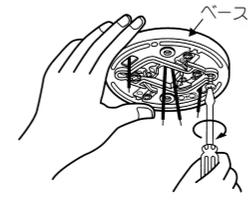
5-1 電気工事要領

- 注意**
- 丸型ベースの電気工事は専門の電気工事に依頼してください。一般の方が工事をすることはできません。
 - 金属管またはボックス内に電源用配線と外部出力用信号線を同一配管される場合、外部出力用信号線は600V絶縁電線で線径φ1.25以上のものをご使用ください。
 - 端子の配置は「5-2 配線方法」に記載していますので、電源用配線(AC100V)と外部出力用信号線は誤配線のないように正しく結線してください。誤結線しますと内部回路が破損しますのでご注意ください。また、外部出力用信号線は極性がありますので、正しく接続してください。

①丸型ベースのカバー取付けネジをゆるめてベースカバーを外します。

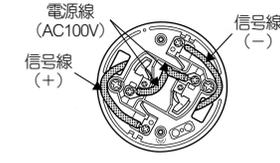


②ベースを付属の木ネジ(丸型ベースに同梱)で天井に取り付けます。このとき電源用配線、外部出力用信号線を各々の穴に通します。

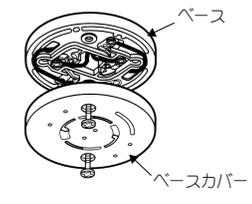


③電源用配線、外部出力用信号線を結線します。

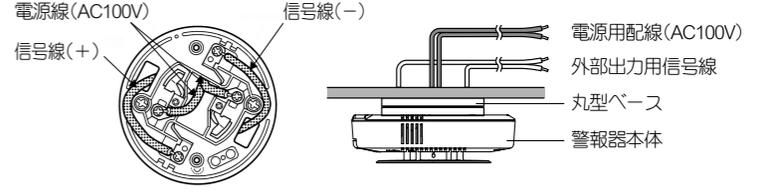
※外部出力用信号線は極性がありますので、ベースの表示通りに結線してください。



④ベースカバーを元通り取り付けます。



5-2 配線方法



注意

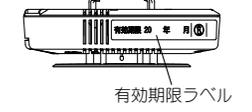
- 外部出力用信号線には極性がありますので、配線の際はご注意ください。
- 外部出力用信号線は接続ミスを防ぐため+の色別をしてください。

5-3 丸型ベースの取り付け



5-4 有効期限の記入

この警報器の有効期限は、取り付け後5年間です。必ず、警報器本体に貼ってある「有効期限ラベル」に有効期限の年月を記入してください。



5-5 警報器本体の取り付け

注意

- 警報器の取り付け時に、警報器を落とさないように注意してください。センサ回路などが故障し、正常に作動しない恐れがあります。
- 警報器は過度に回しすぎないように注意してください。破損の原因になります。
- 警報器中央部の熱感知部に触れないように作業してください。センサの破壊など、正常に作動しない恐れがあります。

- ①丸型ベースに警報器本体を合わせ、差し込んでください。※丸型ベースは方向性がありますのでご注意ください。
- ②警報器本体を止まる位置まで右に回し(時計方向)確実に固定します。※警報器が確実に固定されているか確認してください。



5-6 外部機器への連動接続

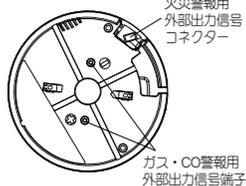
本警報器には2種類の外部出力信号がありますので、外部機器と連動される際はご注意ください。

①火災警報用外部出力信号

- ・無電圧、a接点、無極性。
- ・警報器背面のカバー内にあるコネクタに接続。

②ガス・CO警報用外部出力信号

- ・有電圧 0-6-12-18V、有極性。
- ・警報器背面の端子から丸型ベースを経由して接続。



■外部機器との連動対応表 上段 ○：連動可能、×：連動不可能
下段 警報器が鳴り始めてから、各機器が作動するまでの遅延時間です。遅延時間は外部機器によって異なります。

警報器の種類 外部出力信号	警報時の動作	火災警報		CO警報		備考
		無電圧a接点ON	DC12V	DC18V	DC18V	
外部機器 外部出力端子	監視センターへ自動通報※1	○	○	○	○	遠隔にてガス遮断
外部機器 外部出力端子	監視センターへ自動通報※1	○	○	○	○	遠隔にてガス遮断
マイコンメーター	ガスを止める	×※2	○※3	○※3	○※3	
戸外ブザー (4) 001-0011)	警報音が鳴る	×	○	○	○	ガス警報 CO警報用
リモートマイコンシステム (業務用)	ガスを止める	×	○	○	○	他の安全システムの中継機能
業務用運動遮断システム	ガスを止める	×	○	○	○	
ホームモニター	機種により異なりますので、各ホームモニターメーカーにお問い合わせください。	×	○	○	○	
集中監視盤	機種により異なりますので、各集中監視盤メーカーにお問い合わせください。	×	○	○	○	※4
フラッシュアラーム	機種により異なりますので、各フラッシュアラームメーカーにお問い合わせください。	×	○	○	○	

※1 必要な場合は、遠隔操作でガスを遮断し、大阪ガスあるいは OSS(大阪ガスセキュリティサービス)の係員が出動し、緊急対応します。

※2 火災警報時にマイコンメーター運動遮断を希望される場合は、大阪ガスにお問い合わせください。

※3 別途、警報器アダプター-(4) 101-0060)が必要で、(別売部品)

※4 本警報器は消防法上の自動火災報知設備の検知器として使用できません。

- ホームモニター・集中監視盤・フラッシュアラームに関する内容は、各メーカーにお問い合わせください。
- 上記表内外の外部機器に関する内容は、大阪ガスにお問い合わせください。

＜ご注意＞

1. 警報器背面のガス・CO 警報用外部出力信号端子は有電圧出力ですので、外部機器と連動する場合は極性に注意してください。
2. 複数の外部機器を連動する場合は、大阪ガスへご相談ください。
3. 外部機器は専用をお使いください。(ホームモニター・集中監視盤・フラッシュアラームを除く)

外部機器と連動する場合の注意点及び点検方法

- 外部機器と接続する場合。

＜火災警報信号の場合＞

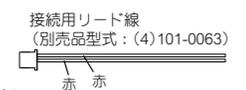
- ①外部出力コネクタカバーを外し、別売品の接続用リード線を本体のコネクタへしっかりと差し込んでください。



- ②接続後本体裏面の切りかき部をラジオペンチなどを使用して切り取り、そこからリード線を引き出してください。



- ③カバーはケースに確実に取り付けてください。



- ④リード線は接続用リード線(別売品型式：(4) 101-0063)の赤、赤に接続してください。

＜ガス警報・CO 警報信号の場合＞
「5-1 電気工事要領」「5-2 配線方法」に基づいて行ってください。

- 下記の場合は、外部機器の取扱説明書ならびに取付説明書に基づいて連動点検を必ず実施し、外部機器が正常に作動することを確認してください。

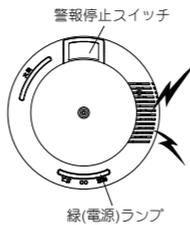
- ①新たに警報器を外部機器と連動する場合。
 - ②警報器を交換する場合。
 - ③外部機器を取り付け・交換する場合。
 - ④配線を修理・交換する場合。
- 実施しなかった場合、外部機器が正常に作動しない恐れがあります。
- 警報器の外部出力動作を確認する場合は、次項の「外部機器との連動点検」または「6-2 作動点検」に基づいて行ってください。

- 集中監視盤またはインターホンなどと連動した場合、CO警報時でも集中監視盤またはインターホン側は、ガス警報を発する場合があります。

外部機器との連動点検

- ①警報停止スイッチを 3 秒間押し続けてください。

「ビッピッ」と開始音が鳴ります。(緑(電源)ランプが点滅を開始)その後警報停止スイッチを離すと外部出力信号が 1 分間出力されます。(有電圧は 12V と 18V が交互に出力されます。)火災警報時の信号も出力します。



- ②以下の動作を行います。

動作順	音声内容	ランプ					
		電源(緑)	CO(黄)	ガス(赤)	火災赤スライド	火災無電圧a接点	有電圧出力(12V/18V)
1	ワーワーピーピー 火災警報器が作動しました 確認してください	点滅			点灯	ON	ON
2	ワーワービッピッビッピッ ガスがもれていけません	点滅		点灯		ON	ON
3	ワーワーピッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください	点滅	点灯			ON	ON
4	無音	点滅	点灯	点灯	点灯	ON	ON

(注)上記の動作は連動点検用で、警報時の動作とは異なります。警報時の動作は取扱説明書を参照してください。

- ③約1分後に「ピー」と終了音が鳴り、監視状態(緑(電源)ランプ点灯)に戻ります。

＜1分以内に点検を終えたいとき＞

上記の動作中に警報停止スイッチを押すと、「ピー」と鳴り、即時に終了します。

6 取り付け後の確認・点検

この警報器は、通電開始後の約30秒間でセンサを含めた内部回路が正常であることを確認する自動初期点検機能を有しています。

製造から取付までが1年以内の警報器(警報器の製造番号シールに記載の製造年月から取付年月までが1年後の同月まで)で、以下の条件を満たす場合は、「6-2 作動点検」は不要です。「6-1 自動初期点検機能の確認」のみを行ってください。ただし、お客さまから要望があった場合は、「6-2 作動点検」を行ってください。

- 新規取付時(未入居の新築住宅を含む)
- 更新時

以下の場合には、「6-2 作動点検」が必要です。「6-1 自動初期点検機能の確認」の後に「6-2 作動点検」を行ってください。

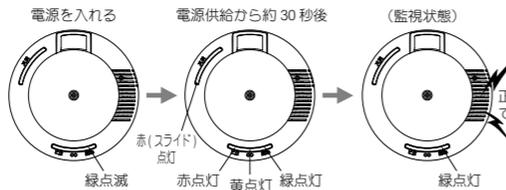
- 製造から取付までが1年を超えた警報器

6-1 自動初期点検機能の確認

警報器本体を丸型ベースに差し込む。

緑(電源)ランプが点滅し、約30秒後にランプが全点灯した後、正常であれば、「正常です」と鳴り、緑(電源)ランプが点灯になり、警報器は監視状態に入ります。万一、異常があれば、「故障です」と鳴りますので、警報器の交換をお願いします。

※赤(ガス警報)ランプが点滅することがありますが、しばらくすると消灯します。



6-2 作動点検

●おねがい

この警報器は作動点検をスムーズに行うため、監視状態に移行後3分30秒間(電源供給後4分間)に限り、採取ガスに対して反応しやすい状態が保持されます。必ずその間に作動点検を行ってください。上記時間を過ぎると、採取ガスに対して反応しやすい状態は解除されます。その場合は警報器を取り外し、再度丸型ベースに差し込み直してから行ってください。

＜火災警報機能の点検は、必ずガス警報機能・CO警報機能の点検後に行ってください。＞

通電開始後の緑(電源)ランプが点滅している間や点灯に変わる際に火災警報機能の点検を行った場合、約30秒経過しても「正常です」が鳴らず、点検ガスに対して反応しやすい状態に移りません。

＜準備するもの＞

- 点検ガス採取器(部品番号：410101010100)
- ガスライター
- ヘッドライヤー上記3点または、
- 火災・CO・ガスもれ警報点検治具(別売品：TTO-11)



△注意

アルコールを主成分とした点検ガス及びライター式の点検ガス(生ガス)は、使用しないでください。センサ異常またはセンサ故障の原因になります。警報状態からの復帰に大変時間がかかることがあります。

＜点検ガス採取器とヘッドライヤーを用いて点検する場合＞

ガス警報機能とCO警報機能の同時点検

- ①ガスライターを点火し、炎の高さを約4cmに調節する。

●おねがい

炎が小さいとガスが採取しにくくなります。

- ②点検ガス採取器の容器部分を十分圧縮して、採取管の先端を炎の外炎の中央部へ持って行く。

- ③容器の圧縮をゆっくり(約3秒程度)ゆるめ、炎の中からガス成分を吸引する。

●おねがい

長時間加熱すると、ガス採取器が破損することがありますので注意してください。

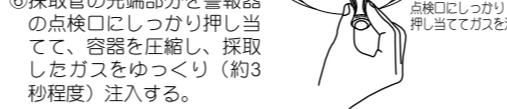
- ④点検ガスの採取が終わったら、速やかに点検ガス採取器を炎から離し、ガスライターの炎を消す。

△注意

炎から出した直後の採取管は、先端が非常に熱くなっています。絶対に触らないでください。やけどをする恐れがあります。

- ⑤採取管の先端部分の温度が下がるまで(約30秒程度)待つ。

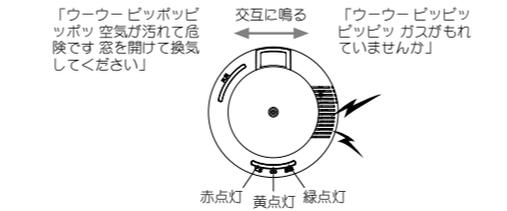
- ⑥採取管の先端部分を警報器の点検口にしっかりと押し当てて、容器を圧縮し、採取したガスをゆっくり(約3秒程度)注入する。



△警告

採取したガスは、警報器の点検以外には使用しないでください。直接吸引するとCO中毒を起こす恐れがあります。

- ⑦黄(CO警報)ランプが点灯し、CO警報音「ワーワー ビッポッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」が鳴り、赤(ガス警報)ランプが点灯し、ガス警報音「ワーワー ビッピッピッピッ ガスがもれていけません」が鳴ります。



- ⑧ガスがなくなると、赤(ガス警報)ランプと黄(CO警報)ランプが消灯します。 ※電源を入れてから4分間は、ガスがなくなり監視状態に戻っても電圧出力が保持されます。この間に警報停止スイッチを押しても出力は解除されません。電源投入から4分間が経過しますと通常の状態に戻ります。火災警報用外部出力に保持機能はありません。また、外部機器の動作を解除するときは、いったん警報器を取り外してください。

火災警報機能の点検

- ①ヘッドライヤーの吹出し口を、警報器の熱感知部に当てる。



- ②ヘッドライヤーの電源スイッチを入れ、温風を吹きかける。

△注意

- ヘッドライヤーを離した直後の警報器は熱くなっています。絶対に触らないでください。やけどをする恐れがあります。
- ライターなどの直火による加熱試験は、行わないでください。破損の原因となります。

- ③赤(火災警報)ランプがスライド点灯し、火災警報音「ワーワーピーピー 火災警報器が作動しました 確認してください」が鳴ります。

- ④熱感知部周囲の温度が規定温度(約65℃)以下になると、赤(火災警報)ランプが消灯します。

＜火災・CO・ガスもれ警報点検治具を用いて点検する場合＞

ガス警報機能とCO警報機能の同時点検

- ①ガスもれ点検キャップを本体から取り外す。



- ②コントロールレバーを「ON」の位置に移動する。

●着火確認窓内が赤くなることを確認

- ③ON・OFFスイッチを前方にゆっくり押し上げ「ON」の位置に移動する。 ※着火確認窓より着火の確認をしてください。着火すると着火確認窓内が赤くなります。(もし着火しなかった場合は、もう一度上記の操作を行ってください。)

- ※カチツと音がするまでしっかりと押し上げてください。

- ④本体の先端を警報器の点検口付近に近づけ、約2秒程度ガスを吹きかける。 ※10秒以上ガスを吹きかけないでください。本体及び警報器を破壊・損傷する恐れがあります。

△警告

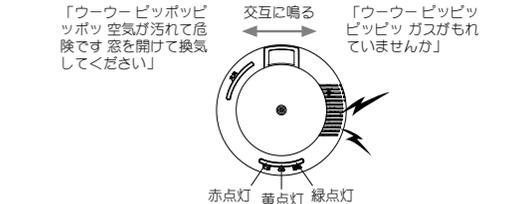
点検治具より吹き出されるガスは、警報器の点検以外には使用しないでください。直接吸引するとCO中毒を起こす恐れがあります。

△注意

着火使用時には先端の樹脂部分は熱くなっています。絶対に触らないでください。やけどをする恐れがあります。

- ⑤ON・OFFスイッチを離す。 ※ガスが止まっていることを確認してください。

- ⑥黄(CO警報)ランプが点灯し、CO警報音「ワーワー ビッポッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」が鳴り、赤(ガス警報)ランプが点灯し、ガス警報音「ワーワー ビッピッピッピッ ガスがもれていけません」が鳴ります。



- ⑦ガスがなくなると、赤(ガス警報)ランプと黄(CO警報)ランプが消灯します。 ※電源を入れてから4分間は、ガスがなくなり監視状態に戻っても電圧出力が保持されます。この間に警報停止スイッチを押しても出力は解除されません。電源投入から4分間が経過しますと通常の状態に戻ります。火災警報用外部出力に保持機能はありません。また、外部機器の動作を解除するときは、いったん警報器を取り外してください。

●おねがい

- 警報器が鳴りやまない場合は、警報器を取り外して再度「6-1 自動初期点検機能の確認」を行ってください。

火災警報機能の点検

- ①ガスもれ点検キャップを本体から取り外す。



- ②コントロールレバーを「ON」の位置に移動する。

●着火確認窓内が赤くなることを確認

- ③ON・OFFスイッチを前方にゆっくり押し上げ「ON」の位置に移動する。 ※着火確認窓より着火の確認をしてください。着火すると着火確認窓内が赤くなります。(もし着火しなかった場合は、もう一度上記の操作を行ってください。)

- ※カチツと音がするまでしっかりと押し上げてください。

- ④図のように本体の先端を警報器の熱感知部に当て、熱風を吹きかける。 ※常温(20℃)での目安は約3秒～約7秒です。 ※火災警報を発生したら、すぐに(1秒以内)吹きかけを止めてください。また、10秒以上熱風を吹きかけないでください。警報器を破壊・損傷する恐れがあります。

△警告

点検治具より吹き出されるガスは、警報器の点検以外には使用しないでください。直接吸引するとCO中毒を起こす恐れがあります。

△注意

着火使用時には先端の樹脂部分は熱くなっています。絶対に触らないでください。やけどをする恐れがあります。

- ⑤ON・OFFスイッチを離す。 ※ガスが止まっていることを確認してください。

- ⑥赤(火災警報)ランプがスライド点灯し、火災警報音「ワーワーピーピー 火災警報器が作動しました 確認してください」が鳴ります。

- ⑦熱感知部周囲の温度が規定温度(約65℃)以下になると、赤(火災警報)ランプが消灯します。